

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第193回

【学生の目】

私たちの大学のある千葉県浦安市は東京湾の一番奥に位置する。埋立地が東京湾に突き出た地形の浦安市の中でも大学は最も海に近い所であり、長い海岸線に取り囲まれている。埋め立てから40年近く

海岸沿いの新しい景色

が経ち、計画的につくられた公園の緑が大きく育ち、海と空と緑の自然が豊かだ。このため海岸沿いの住宅地は人気が高い。

海岸線沿いの住宅地の中でも東京湾が一望でき、海に向かって房総半島の工場地帯が見える場所を通りか



金子 信孝
不動産学部 1年

かった際、海岸でよく見る松並木より海側に、密生した草木と竹柵が続く、不思議な景色に出会った。

よく見ると、竹柵の後ろは小高い土手になっていて、草木が植えられている。草木が密生する理由は、草木が大きく根を伸ばして地面をがっちり固定し、津波が来た時に水の勢いをそいで宅地建物を守ることをねらったものである。竹柵は潮風で枯れないように草木を守るため

津波に備える“緑の堤防”

である。これは「生命と育ちの森プロジェクト」の活動の一つで、浦安市が13年4月から始めたものである。

「生命と育ちの森プロジェクト」は沿岸部に草木を育てることで平時には潮風や強風をやわらげて、豊かな憩いの都市環境を創造し、高潮などの災害時には、密生した木々が水の勢いをそいで内陸部の被害を減少させる、減災効果も見込んでいる。

浦安市がこのプロジェクトに取り組むに至った背景には、東日本震災の経験が大きく関わっている。東日本震災ではコンクリートの堤防が破壊される様子に、日本国内だけでなく世界中が震撼した。ここではより大きなコンクリートをつくるのではなく、土手と緑によって津波の被害を少なくする方法を選んでいく。そのため、普段は今まで以上に緑豊かな新しい景観を楽しむことができる。コンクリートは古くなると劣化し維持

管理費用がかかるが、緑の堤防はその費用も不要だ。この素晴らしいプロジェクトにも欠点がないわけではない。海岸線沿いの素晴らしい景観を望み、値段の張る場所に住んでいるにも関わらず、草木が伸びると住宅からの東京湾の景観が遮られる点である。剪定を望む声も出そうだが、それによって根の張り具合が弱まると緑の堤防



密生した草木と竹柵が続く。浦安市「生命と育ちの森プロジェクト」の育成地

の意味がなくなってしまう。大きく育った緑が話題となる日が早く来てほしいし、緑の堤防沿いにジョギングやサイクリン

【教員のコメント】
緑の防潮堤は、工学的に考えた人工物による防災ではなく、植物学的に考えた自然の力で減災する試みである。防災目的でつくられた無機質なコンクリートの堤防ではなく、目的すら直ちにはわからない、柔らかなで多目的な佇まいに未来を感じる。